

社会福祉法人 慧誠会

多機能型福祉サービス事業所 帯広ケア・センター（帯広市）

○基礎情報【経営形態：農作物の生産・加工、農産物の販売及び付随業務】

【職員数：40名、事業所利用者数：85名（知的、精神、発達障がい者など）】



<問合せ先> 帯広ケア・センター ☎ 0155-59-2739

1 農福連携に取り組んだ経緯

帯広ケア・センターは、平成3年4月に精神保健法（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律）に基づく通所授産施設として開設され、平成18年10月、障害者自立支援法施行に伴い現体制に移行した。

開設時から、農作業（野菜栽培）の再生産性に着目し、6haほどの農地を活用して、野菜（ばれいしょやごぼう等）や豆類、花き（苗）の栽培・収穫といった利用者の活動の場を提供している。

近年、利用者の障がい特性に変化が見られ、栽培・収穫などの農作業よりも農産物の調製・加工作業に適性がある利用者が増えてきたことから、利用者が安心して活動できるよう、豆類の調製作業やごぼう茶・羊かんペースト等の加工・製造を開始した。

利用者の特性を見極めた上で活動や就労を支援する中、自社農園で生産した野菜や農産加工品については、地方発送のほか、帯広市内の店舗や近郊の施設などで販売することにより収益確保にも努めている。



ノフクマルシェ（帯広会場）での販売の様子

2 取組内容

- (1) 活動形態：多機能型福祉サービス事業所
自社農園（6.0ha、ビニールハウス8棟）で野菜や豆類、花き（苗）等の栽培・収穫、農産物の調製・加工作業、販売。
- (2) 活動時間：月曜日～金曜日 9:00～15:00
※日曜日及び祝祭日は休み、土曜日は月2回程度開所
- (3) 工賃：380円～/時間
- (4) 送迎：あり ※対象地域は問合せ先に要確認
- (5) 昼食：あり（200円/食）



利用者が手がけた農産加工品

3 取組の特徴

- (1) 近隣の生産者や取引先からのアドバイスを参考にして、農作物の栽培技術向上を図っている。
- (2) 就労機会の提供に当たっては、利用者の最大幸福の確保を考慮しつつ、利用者の障がいの特性に沿った支援となるよう検討と工夫を重ねている。
- (3) 利用者の地域生活を支援する取組をグループ組織の帯広生活支援センターや稲田館と連携して行うとともに、自立を希望する方に対する支援についても関係機関と連携して行っている。
- (4) 農産物や農産加工品については、季節の特産品として地方発送を行っている。また、新たな販路開拓に取り組んだ結果、帯広市内の店舗や音更町内の道の駅などでの販売が実現した。

4 障がい者就労への考え方

- (1) 就労継続支援（B型）の利用者に対しては目標工賃達成指導員（常勤1名）を配置し、利用者が安心して働き、工賃水準を上げていけるよう取り組んでいる。
- (2) 一般の事業所にセンター職員も同行する「援助付き就労（施設外就労）」に取り組んでいる。
- (3) 就労を希望する利用者が安定して働き続けられるように、就労後を見据えた支援の在り方についても模索を重ねている。

5 今後の予定や将来展望

- (1) コロナ禍になってからは、大収穫祭の開催を中止しているが、これまでの開催時には、農産品等を対面販売することで利用者の精神面での成長が得られ、地域住民との交流も深められていた。コロナ禍でのイベント再開には困難を伴うが、地域イベントには多くのメリットがあり、開催方法を検討したい。
- (2) 少子化の流れが加速しており、福祉分野においても様々な影響が出てくるのではないかと懸念している。